学校番号	1301

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	造形演習	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・今までに学んだ知識を活かしつつ造形表現における基礎的な技術、技法を学習します。
・造形コースのモデルプラン科目として、基礎から応用まで様々な表現方法や技術を学び、自らの表現ができるようになることを目標に設定しました。
・クラスメイトと作品を見せ合い評価しあう中で、それぞれの見方、感じ方の違いを共有し、表現に対する理解を深めます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
基礎から応用まで様々な表現方法や技術、効果を学び、自らの制作にとりいれていく。
【思考力、判断力、表現力等】
ものづくりをより深く理解するとともに、ひとつひとつの作品に対しじっくりと向き合い制作に取り組む姿勢を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
基礎から応用までの様々な表現方法を習得できるように段階的な課題設定を行う。計画的な視野をふまえて、じっくりものづくりをする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・画材や道具の使い方と基礎的な表現方法を学び習得する。 ・学習した表現方法を活かした作品を制作する。	・新たに学んだ技法を工夫して使い、より効果的に表現することができるようになる。 ・草稿を考え、自らの表現の目標に向かって予測し、制作計画を立てることができるようになる。	・落ち着いて粘り強く、制作に取り組む。 ・作品発表会で他人の発想の良さを認め共感できる。美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ1	オリエンテーション	授業のきまり 内容説明 教材配布	c 授業のきまりや流れを積極的に理解するよう取り組めたか a 説明を受け止め、指示通り教材に記名し適切に収納できたか	プリント 作品	プリント 作品	プリント 作品 授業態度
	表現技法（基本）	「色彩の基礎」画材や道具の使い方と基礎的な表現方法を学び習得する。 色彩の感覚を養い、幅広い色遣いができるようにする。 表現方法を活かした作品を制作する。	a 画材や道具の使い方を理解し使うことができたか。 a 幅広い色遣いができたか。 b 表現方法を理解し、作品に対して効果的な使い方ができたか。	プリント 作品	プリント 作品	プリント 作品 授業態度
ステージ2	表現技法（応用1）	「エッチングによる表現」 白から黒までの調子の変化を、ペンのタッチのみで表現する技法を学ぶと同時に、陰影についても学ばせる。落ち着いて粘り強く作業を積み重ねることを通して集中力と持続力を養う。	a 白から黒までの調子の変化を、ペンのタッチのみで表現する技法を学ぶ b 明暗に対する関心を高め、陰影を画面に表現することができたか c 与えられた時間の中で、集中し積極的に作業することができたか。	プリント 作品	プリント 作品	プリント 作品 授業態度
ステージ3	表現技法（応用2）	身近なものをもとにアイデアを考えてデザインし、粘土という素材を体験しつつ制作する。	b決められた素材と原型の中で、照明にあった独自のアイデアを考えることができたか。 a粘土という素材を生かした表現ができたか。 c 積極的な取り組みができたか。	プリント 作品	プリント 作品	プリント 作品 授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度